



# インテンシブイングリッシュ(医学部)

## 外国人教員による特別プログラム

実施日:2022年10月3日~2022年11月7日  
 実施方法:初回 Zoomオンライン 以降 昭和キャンパス保健学科中央棟1番教室  
 リーダー:医学部 保健学科 検査技術科学専攻 2年 二宮佳凜  
 (副)  
 講師:群馬大学大学院非常勤講師 メアリー・渋谷先生



### 1. 目的

- ・医療英語を学ぶことで、国際的に医療現場で活躍できるスキルを身につける。
- ・英語でのプレゼンテーション、ディスカッションスキルを行うことで、表現する能力を磨く。
- ・プレゼンテーションを作成したり、他の学生の発表を聞いたりすることで、医療や他分野のトピックについて理解を深める。

### 2. 概要

このプログラムは医学部の2年生を対象として行われており、群馬大学大学院非常勤講師であるメアリー・渋谷先生をお招きし、全5回の講義を実施した。初回のみZoomオンラインで実施し、以降4回は対面で実施した。オンライン授業だけでなく、対面でプレゼンテーションやディスカッションを行う。

### 3. スケジュール

2022年10月3日(月)、10月17日(月)、10月24日(月)、10月31日(月)、11月7日(月) 18:30から20:00の90分間、計5回実施した。

すべての講義において、学生のプレゼンテーションを行い、その後発表学生が考えたトピックについて参加学生全員でディスカッションを行った。メアリー先生には、プレゼンテーション直後にコメント、アドバイスをいただき、のちにメールでもフィードバックをいただいた。また、科学論文の書き方について講義形式で学んだ。

### 4. プレゼンテーション・ディスカッション

毎回の授業で、数名が医療分野やその他興味のある分野に関してのプレゼンテーションを行った(図1)。全体を通して1人2回プレゼンテーションを行った。中には1回目と2回目と同じテーマで発表を行った学生もあり、そのトピックについてより深く知ることができた。どの学生も興味のある事柄について、論文やインターネットで詳しく調べ、専門的かつ興味深い内容の発表をしていた。具体的なプレゼンテーションの主なトピックは表1のとおりである。

表1 学生によるプレゼンテーションのタイトルの例

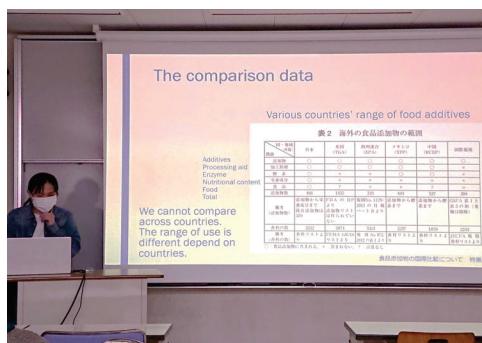


図1 学生によるプレゼンテーションの様子

Title	タイトル
Nurse Practitioner	診療看護師について
The situation of the diet in Japan	日本の食生活の実態
Winter Blue	ウィンターブルーとは
Sleeping	睡眠について
Primary prevention of NCDs	非感染性疾患の一次予防
Sea otters and global warming	ラッコと地球温暖化の関係
Poverty and Health	貧困と健康
Action for Poverty	貧困への取り組み

プレゼンテーションを行った学生はディスカッショントピックを3つ用意し、発表後そのトピックに関して他の学生とともにディスカッションを行った。自分の意見を述べる良い経験となり、どのように話したら簡潔に自分の意見を伝えることができるのか試行錯誤する良い機会となった。それに加えて、他の学生や先生の意見を聞いて新たな情報や異なる視点に触れることで、そのトピックについての視野を広げることができ、考えが深まった。

### 5. 英語による科学論文の書き方

メアリー・渋谷先生の講義により以下の内容を学習した。実際の講義スライドを図2に示す。

- Lecture 1 サイエンスライティングの基本と注意点
- Lecture 2 能動態と受動態、句読点、段落付け、抄録
- Lecture 3 ドラフトエラーと修正、図、表
- Lecture 4 プレゼンテーションスライドのデザイン
- Lecture 5 ポスター、引用文献と参考文献

無駄な部分を省き、簡潔な文を使う方が  
伝わりやすい!

プレゼンテーションスライドは文ではなく単語で、  
具体的なデータは図や表で示す!

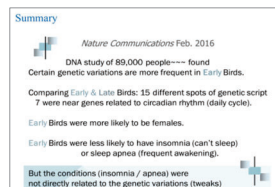


図2 メアリー先生による講義スライド

### 6. まとめ

#### 総括

今回のインテンシブイングリッシュを通して、医療英語に触れ、また医療分野のトピックに関して知識を得ることができた。科学英語論文の書き方の講義では、科学論文を書く時だけでなく、日頃のプレゼンテーションや発表の機会など多方面で役立てることができる表現のポイントなどを学んだ。さらにプレゼンテーションと積極的なディスカッションにより、自身の医療や社会問題に対する視野を広げることができた。全体を通して、より活発で実りのある、有意義な活動を行うことができた。

#### 謝辞

お忙しい中、群馬大学まで来て、毎回素晴らしい講義をしてくださったメアリー・渋谷先生に深く感謝申し上げます。また、今年度のインテンシブイングリッシュの実施にご尽力くださった大学院保健学研究科の川島智幸先生、大学院医学系研究科の鯉淵典之先生、昭和地区 学事・学生支援係の笠原様をはじめとする理工GFL関係者の皆様にも深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。